

Title	清算貿易制の理論
Author(s)	谷口, 吉彦
Citation	經濟論叢 (1938), 46(6): 832-850
Issue Date	1938-06-01
URL	http://dx.doi.org/10.14989/131111
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

京都市大學經濟學會 經濟論叢

第 六 號 第 四 十 六 卷

昭和十三年六月一日發行

論 叢

箱館における缺乏品貿易……………

清算貿易制の理論……………

共同體思想の生的基礎……………

時 論

消費節約の問題……………

研 究

ホッブスの租稅論とその周圍……………

利子率を含む經濟擴張論……………

エッデワースと誤差法則……………

近世絞油業の發達……………

說 苑

損害率と保險料率との相關關係……………

臨時稅法の整理……………

附 錄

雜報・外國雜誌論題
本誌第四十六卷總目錄

（禁 轉 載）

經濟學博士 本庄榮治郎

經濟學博士 谷口吉彦

經濟學博士 石川興二

文學博士 高田保馬

經濟學士 島 恭彦

經濟學士 飯田藤次

經濟學士 馬場吉行

經濟學士 住谷勇二

經濟學士 佐波宣平

經濟學博士 汐見三郎

清算貿易制の理論

谷口 吉彦

目次	一	清算貿易制の意義	二	清算貿易制の特質	三	清算貿易制の目的	四	清算貿易制の機能
----	---	----------	---	----------	---	----------	---	----------

一 清算貿易制の意義

こゝに清算貿易制 (Clearing-system) と言ふは、必ずしも爲替清算制 (Exchange-clearing-system) に限らず、これをも包含して、更に廣汎な事實を包括する概念である。世界恐慌を契機として現はれた新たな貿易政策または貿易方法として、吾々はすでに、交換貿易制 (Barter-system) と割當貿易制 (Quota-system) と許可貿易制 (Licence-system) とにつき、屢々論述するの機會をもつたが、是等と併立して、いな正確には是等を一括した對立物として、最も後れて發展したものが、こゝに清算貿易制として總括する新方法である。これら四者の間には、如何なる區別と關聯があるかは、姑らく後の問題として、こゝでは先づ清算貿易制と稱するものゝ意義を明らかにしておかねばならぬ。

清算貿易制とは、爲替によらずして決済しうる貿易方法を意味する。むろん現金決済を含まないことは言ふま

1) 拙著、貿易統制の研究、第一卷第七、八、九、十章；第二卷第六章參照。

でもない。普通の貿易においては、輸出入商品の代金は、必ず現金・爲替その他の何等かの形における資金を國際間に移動せしめて、之を決済するものである。これは前述の新方策の下においても同様であつて、例へば輸入割當制や輸入許可制や交換貿易制の下でも、そこに行はるゝ貿易に關する限りでは、主として爲替によつて決済せらるゝものである。之に反して清算貿易制と稱せらるゝ一連の新方法にあつては、たとひその具體的方法には種々の相違はあつても、それらに共通せる一つの點は、何らの形における資金も、之を國際間に移動せしめない點にある。換言せば爲替または「ランスフアー」を回避して、輸入をなしうる方法である。²⁾

爲替を回避して輸入しうる新方法といふ點において、吾々が清算貿易制として包括せんとする一連の貿易方法は、互に共通の性質を共有するのみならず、後に詳論する如く、その間には一貫せる論理的發展を藏してゐる。その點を明らかにせんとするのが、この論文の主たる意圖であるが、かくの如き意味における清算貿易制の概念は、ドイツにおいても必ずしも明らかにされてゐるわけではなく、また必ずしも一致せる學者の見解ではない。

この點に關聯して、こゝに包括的名辭として清算貿易制といふのは、かの相殺取引 (Kompensationsgeschäfte) と同じものではない。相殺取引については、すでに吾國にも早くから紹介されてゐる。³⁾ 清算 (Clearing oder Verrechnung) と相殺 (Kompensation) との間には、字義上に如何なる相違があるかは別として、吾々の意味する清算貿易制は、相殺取引をも包含する更に包括的なものである。

Kompensation についてもドイツ學者の見解は必ずしも一致しない。例へば Albe 氏の見解では⁴⁾ Kompensation の根本的形態を三種に區分して、(一) 清算協定または支拂協定の形における Kompensation (二) 國家的の相殺協

2) Max Barczewski, Kompensationsgeschäfte im Rahmen der Kontingentierungspolitik, 1936, S. 59.
Fritz Huhle, Das Kompensationsgeschäft im Rahmen der deutschen Handelspolitik seit der Wirtschaftskrise (Jahrbücher für Nationalökonomie und Statistik, Bd. 145 Heft 2, Feb. 1937, S. 189.)
Walter Greiff, Die neuen Methoden der Handelspolitik, 1934, S. 39.

約 (三) 私的の相殺取引 (Kompensationsgeschäft) となつてゐる。即ちこゝでは Kompensation は却つて包括的に用ひられて、Verechnung oder Clearing をその中に包含してゐる。

然るに Huhle 氏の見解では、⁵⁾ Kompensation と Clearing とは明らかに對立的なものとせられ、前者は私的のもの、後者は公的のものとして區別せられてゐる。Barczewski 氏もほゞ同じ見解に屬し、Kompensationsgeschäft をもつて、爲替清算および商品清算と鼎立するものとなしてゐる。⁶⁾

清算貿易制をもつて吾々の如く廣義に解し、すべての是等の新貿易方策を包含せしむるの見解は、Kroymann 氏において發見される。即ち『若しも吾々が全く一般的な外國貿易における清算 (Clearing im Aussenhandel) をもつて、現實の爲替の移動を排除して、輸出債權と輸入債務とを決済するものと解するならば、これはまた特殊的には、單に一定の清算形態の一つを示すに過ぎない相殺取引 (Kompensationsgeschäft) にも妥當する』⁷⁾ と言ひ、清算制度の形態を分類して、爲替清算 (Das Zahlungsclearing) と商品清算 (Das Warenclearing) とを區分し、謂はゆる相殺取引は之を後者に包含せしめてゐる。⁸⁾ また前記 Huhle 氏の如きも、廣義の清算概念を必ずしも否定するものではなく、たゞ之に包含せらるゝ清算の種類には、極めて多種多様の形態があるから、その區別を明瞭ならしめる必要があるとの理由より、前述の如く清算を狹義の公的のものに限り、之を私的の相殺取引と區別するに過ぎない。⁹⁾

かくの如く清算貿易制およびその一形態としての相殺取引については、ドイツにおいても種々の見解が對立してゐる。併しながら何れの見解をとるを問はず、また總ての人々の一致してゐる點は、是等を包括する共通の性

- 3) 油本豊吉氏、相殺取引論(經濟學論集 第五卷第三號昭和十年三月)
有澤廣巳氏、Kompensationsverkehr について(河津教授還曆祝賀記念、經濟學の諸問題. P. 335-362)
尾形繁之氏、戰時貿易政策と清算制度(經濟學雜誌 第二卷第二號昭和十三年二月) 4) Otto Ahbe, Die Praxis und Mängel des Kompensationsgeschäftes, 1936, S. 18. 5) Huhle, a. a. O. S. 189. 6) Barczewski, a. a. O. S. 59.

質の存する點にある。吾々はたゞこの共通の點を捉へて、之を假りに清算貿易制と稱するに過ぎない。而して本論においては、先づその一般的なる理論的考察を試みんとするものである。

二 清算貿易制の特質

まづ清算貿易制なる概念は、われ／＼は之を爲替貿易制と對立せしめて考へる。從來の普通の貿易は、こゝに謂ふ爲替貿易制であつて、爲替によつて貿易を決済する制度である。之に對して清算貿易制は、清算によつて貿易を決済しうる制度である。こゝに言ふ清算とは、後に詳論する如く種々の方法を包含着してゐるが、こゝでは一應まづ爲替によらざる決済方法と解すればよい。従つて清算貿易制とは、別言せば爲替によらざる貿易制度であり、この點において爲替貿易制と對立する概念である。

さて清算貿易制なる包括的概念を認むるドイツの學者は勿論、また之を認めざる學者でも、兎も角そこには斯くの如き一連の新たな事實の發生せること、是等の事實の間には相互に共通の性質を有つてゐること、並びにその共通の性質とは、爲替によらずして貿易を決済しうる點にあることに就いては、殆んど總ての論者の一致して認むる所である。或は『現實爲替の移動の排除』(Ausschaltung des Transfers effektiver Devisen) とし、或は『爲替移動の回避』(Umgehung des Devisentransfers) とし、或は『資金移動の回避』(Umgehung des Transfers) とし、或は『爲替代用手段』(Devisenersatzmittel, Mittel des Devisenersatzes) とし、或は、すべて同じ意味であり、爲替によらずして、他の方法によつて貿易を決済する新たな制度であることは、後に述べるが如く、この新制度

- 7) Kurt Kroymann, Das Kompensationsgeschäft (Wirtschaftsdienst, Heft 34, vom 24. Aug. 1934, S. 1163)
- 8) Ditto, Clearing und Kompensation im Aussenhandel, II. Auflage, 1935, S. 26.
- 9) Fritz Huhle, Das Clearingwesen im Aussenhandel vom deutschen Standpunkt aus (Jahrbücher für Nationalökonomie und Statistik, Bd. 146, Heft. 2. Aug. 1937, S. 176.)

を發生せしむるに至つた現實の事情からも、必然に規定される所である。

爲替によらざる貿易制度といふ特質において、清算貿易制は在來のすべての貿易制度と區別されると共に、また世界恐慌を契機として發生した新たな貿易方策、即ち謂はゆる貿易統制の諸方法とも區別される。最初に述ぶるが如く、現代的の貿易統制の主要なものは、*Barter-system*, *Quota-system*, *Licence-system* の三つであるが、是等は何れも貿易の數量統制といふ點において共通の性質を有し、同時にこの點において在來の貿易政策から區別されうるものである。然るに茲に問題とする清算貿易制より見る時は、是等の新たな貿易統制はまた、別の共通性によつて一括せられてその對立物となり、却つて在來の貿易方策と同じ範疇に入ることとなる。即ち是等の新たな貿易統制は、直接に貿易數量を規制するとは言へ、その規制されたる貿易の決済方法は、從來と同じく爲替決済によるからである。寧ろ爲替決済によるからこそ、例へば輸入數量の制限を必要とするわけである。

それ故に茲に問題とする清算貿易制と、最近の謂はゆる貿易統制とは、その概念の範疇を異にする。従つて現實にも兩者は矛盾なく併存しうる。例へば、貿易統制としての輸入割當制は、清算制度としての相殺取引と併存し、『輸入割當政策の埒内における相殺取引』¹⁾の如きが成立することとなる。たゞ現實には、兩者は何れも大體において世界恐慌後の發展に屬し、後に述ぶるが如くそこには多少の時間的相違はあつても、ぼゞ同時に重複して併存し、且つまた新貿易制度といふ點において、稍もすれば同一視され易く、兩者の本質的相違ことに清算制度の一般的特質の如きは、必ずしも明確にされてはゐない。加ふるに茲に清算貿易制と稱するものの中には、著しくその清算の方法または具體的形態を異にするものが包含されてゐるから、前にも述ぶるが如く、その一般的特

- 1) Kroymann, Das Kompensationsgeschäft, a. a. O. S. 1163.
Ditto, Clearing und Kompensation im Aussenhandel, S. 10.
- 2) Huhle, Das Kompensationsgeschäft, a. a. O. S. 198.
- 3) Barczewski, a. a. O. S. 59.
- 4) Kurt Schneider, Der Welthandel im Clearingverkehr, S. 2.

質は必ずしも明白ではない。

第一に、交換貿易制 (Barter-system) には、例へば日印協定における印棉百五十萬俵に對する綿布四億ヤードと言ふが如く、商品數量的の交換を規定する場合と、貨幣價額的に二億圓の輸出に對する一億圓の輸入と言ふが如く規定する場合とありうるが、何れの場合でも、文字通りの物々交換ではなく、その間に貨幣を介在せしめ、貨幣價額において交換せらるゝことは言ふまでもない。それ許りではなく、その一定の貨幣價額は、普通には從來と同じく、爲替の方法によつて決濟せらるゝものである。こゝに清算貿易制との本質的區別がある。後者では既述の如く、如何なる具體的方法をとるにせよ、爲替によらざる決濟方法を探ることを前提とするからである。

第二に、割當貿易制 (Quota-system) にも、輸出割當と輸入割當を區別しうるが、何れの場合でも、それはたゞ貿易數量を相手國別に割當て、従つてまた多くの場合には、貿易商人間に割當てを行ふに過ぎず、その割當てられたる數量の貿易を決濟するには、普通には爲替の方法によるものである。例へば吾國では嘗て原料羊毛の分散買付を行つたことがあるが、その輸入貿易の決濟は、すべて爲替によつて行はれてゐた。今もしこの決濟を爲替によらず、何等か他の方法によつたとすれば、それはすでに單純なる輸入割當制ではなく、それと清算貿易制とを併用せるものである。

第三に、許可貿易制 (Licence-system) は、從來は主として輸入許可制の形を採つてゐるが、併し戰時體制の下では、敵性貿易の取締と物資確保の目的から、輸出許可制または輸出禁止制も屢々行はれる所である。⁹⁾ 吾國では嘗て濠洲羊毛に對して、輸入許可制を採つたことがある。併しながらこの場合でも、その許可されたる輸入または

- 5) Huhle, Das Clearingwesen, a. a. O. S. 177.
- 6) Barczewski, Kompensationsgeschäfte im Rahmen der Kontingentierungs-politik, 1936.
- 7) 拙著、貿易統制の研究 第一卷第一篇第十章參照
- 8) 拙著、貿易統制の研究 第一卷第一篇第七章參照
- 9) 拙著、日本貿易政策 第四篇戰時貿易統制の諸問題參照

輸出數量に對しては、普通には爲替によつて決済を行ふものであつて、許可制そのものでは、直接に特殊の決済方法を規定するものではない。

かくの如くこゝに問題とする清算貿易制は、從來の謂はゆる貿易統制、すなはち貿易の單純なる數量統制に對しても、著しき特質を有するものである。一は直接の數量統制を主眼とし、他は直接の決済方法を規定するものである。従つてまた前述の如く、兩者は併立して同時に重複存在をなしうるものである。例へば *Barter-system* の下に *Exchange-clearing-system* を併存せしめ、*Kontingenterung* の下に *Kompensation* を併存せしめることも出来る。併しながら後にも論ずる如く、清算貿易制も決して單純なる清算方法の規定ではない。さきに爲替清算制につき論じたる場合にも、吾々は寧ろ之を一つの貿易統制の方法として見たのであるが、一般に清算貿易制についても、それは決して現代の貿易統制から遊離したものではなく、寧ろ數量統制の特殊な一方法として發生した新制度である。こゝから從來の貿易統制とも必然の關聯を生ずる。即ち廣義においては、清算貿易制もまた現代的な貿易統制の一つであるとも言へる。

かくして清算貿易制も現代的貿易統制の一つとして、而かも從來の貿易統制に對しては著しき特質を有するものとして、新たに發生するに至つた貿易制度である。なほ最後にこの制度の特質として、特に從來の貿易統制と異なる點は、一は國家の貿易政策に關し、他は商人の貿易業務に關する點にある。即ち前述の交換貿易制・割當貿易策・許可貿易制の如きは、兩國間の協定によるか、または一方的の行爲によるかは別として、何れの場合でも國家の政策として行はるゝ貿易政策の一つである。勿論その政策の結果は、商人の貿易業務に直接の影響を及

ぼすことは言ふまでもないが、併しそのことを實施するのは國家自身である。然るに清算貿易制は、爲替清算制でも相殺取引でも、その他のものでも、主として貿易業者の業務として實施せらるゝものである。このことは後者に屬する多くの方法が、Kompensationsgeschäft, Tauschgeschäft, Verrechnungsgeschäft, Gegenseitigkeitsgeschäft, Rohstoffkreditgeschäft, Aski-geschäft 等々の如く、多くは業務または取引を意味する Geschäft なる文字を附加せることによつても明らかである。勿論この特殊の業務が、國家法制の規定によつて成立することは言ふまでもないが、併しその業務を實施するものは國家ではなく、個々の貿易商人そのものである。かの爲替清算協定の如きは、この協定を締結するのは國家の行爲ではあるが、併しこの協定の下に清算を行ふものは、個々の貿易商人である。之に反して輸入許可を實行し、輸入割當を實施するものは、個々の商人ではなくして國家またはその機關の行爲である。この點にもまた清算貿易制を一般的に區別しうる特質が横たはると考へられる。

三 清算貿易制の目的

清算貿易制は前述の如き一般的な特質を有する新事實である。それは從來の國際經濟においては、偶然的または例外的に多少は散見したけれども、今日の如き一般性において國際間の現實の問題となつて現はれたことは殆んどない。従つて之に對する理論的研究は、學問的の意味において、今日十分の興味をそゝるに足るものがある。すでに早く世界大戰當時に出現した相殺取引に對してさへ、かつて Neurath 氏は言つてゐる。『國際的の相殺取引に對して、吾々は個人的には如何なる態度を採らうとも、そこには科學的研究を必要とする一つの事實が

横たはつてゐる』¹⁾と。

それと共にこの問題はまた、今日の吾國において、現實的の政策論の立場においても、十分の興味と意義を有しうるものである。それは此の種の清算制度が、かの世界大戰當時に盛行したといふ事實からも、容易に想像しえらるゝ所であるが、吾國の現状においては、一方に戰時體制の必要から多額の輸入を確保せねばならぬと共に他方では國際收支を維持し爲替相場を堅持せねばならぬ。この二つの要求を充たすためには、出來うる限り輸出振興を圖らねばならぬことは勿論であるが、併し之を吾國の一方的意思によつて實現せしむることは、必ずしも容易でない。そこで何らかの他の方法を研究する必要に迫られてゐるわけであるが、この點より見て、種々の形態における清算貿易制は、最も示唆的のものであると言へる。蓋しこの新制度こそは、前にも述ぶるが如く、爲替なくして輸入を續けうべく、國際收支を惡化せしむることなくして、戰時輸入を確保しうる方法を示唆してゐるからである。

そこで問題は、清算貿易制が果して如何なる目的から發生するに至つたか、その目的より見て、果して吾國の現實政策として意義を有するものかを考へねばならぬ。而して清算貿易制の目的は、吾々が單純に觀念的に設定すべきものではなく、現實の社會過程において、如何なる現實の必要から生れ出でたかを検討することによつて、究明さるべきものである。そこでこの新制度が最近とくに盛行するに至つたドイツの現實の事情について、一應の検討を加へる必要が生ずる。換言せば清算貿易制を成立せしむるに至つた社會的根據の中に、この制度の存在目的を發見せねばならぬ。

- 1) Otto Neurath, Grundsätzliches über den Kompensationsverkehr im internationalen Warenhandel (Weltwirtschaftliches Archiv, 13 Bd., 1918, S. 35)
有澤廣巳氏, Kompensationsverkehr について (前掲書 P. 362.)
- 2) Barczewski, a. a. O. S. 121-137.

さきに爲替清算制につき論述した際にも、その成立事情につき一應の検討を加へておいたが、³⁾その他の清算貿易制もまた、大體は同じ事情の連続また強化の下に成立したものと云へる。

第一に、清算貿易制の成立するための前提的事情は、爲替管理の行はるゝことである。『爲替管理のない國では、對外經濟政策において、相殺取引の道を選ぶ必要はない』⁴⁾からである。周知の如くドイツにおいては、一九三一年七月の金融恐慌以來、通貨價值を擁護し爲替相場を維持するために、爲替管理を實施しつゝ今日に及んでゐる。併しながらその爲替管理が、吾國の初期において行はれた様に、單純なる資本逃避の防止または爲替投機の抑制に過ぎない程度の爲替管理であるならば、そこには何ら特殊の清算方法を必要とする事情は存しない。現實の貿易決済のために必要な爲替は、殆んど自由に得られるからである。

そこで第二に、新たな清算制度を成立せしむるためには、その爲替管理が更に強化せられて、國際收支の惡化を防止するために、輸入爲替の供給を制限することによつて、輸入貿易を間接に制限せんとする程度に達せねばならぬ。吾國は昭和十二年一月輸入爲替許可制の實施以來、⁵⁾ほゞこの段階に進むことゝなつた。ドイツでは一九三二年以來、一般的な輸入爲替許可制を實施し、一九三三年以來は爲替賣却高を一九三一年の五〇％に制限したが更に一九三四年に入つてはますます之を制限して、八月以降は遂にその五％にまで累減した。⁶⁾即ち輸入のための爲替を獲得することは、殆んど困難な状態に立ち到つた。従つて尙ほ必要な輸入を續けるためには、爲替によらざる他の何らかの方法を講ぜねばならぬことゝなつた。こゝに新たな清算制度の生れ出づる一つの根據がある。

3) 拙著、貿易統制の研究、第一卷 第一篇 第十章参照。
4) Barczewski, a. a. O. S. 60.
5) 拙著、貿易統制の研究、第一卷 第一篇 第十章参照。
6) Ahbe, a. a. O. S. 15.

第三に、輸入爲替の許可制による間接方法では、輸入制限の効果を十分に期待し得ない場合には、直接の輸入制限方法に進まねばならぬが、何れにせよ最初の段階では、不要または不急の消費財の輸入制限に止まり、次の段階に進んで、必要な原料品の輸入制限にまで進むこととなる。現に吾國でも、棉花・羊毛その他の必要な原料品までも制限しつつあるが、ドイツにおいても一九三四年三月『工業用原料品および半成品の取引に關する法律』を設けて、棉花・羊毛・ゴムその他の原料品につき輸入監督署をおき、更に九月にはその範圍を擴張し、總てを二十五部門に分つて輸入を制限し監督することとなつた。そこでドイツ産業上に必要な原料の獲得は、極めて困難となつて來た。原料輸入を確保するためには、爲替決済によらずして、他の何らかの方法を案出せねばならぬ必要は、國家政策の立場からも、私人營業の立場からも、極めて緊急の問題となつて來た。即ち原料輸入の確保の必要が、新制度を成立せしむるに至つた有力な一つの根據となつたことは、殆んど總ての論者の認むる所である。⁶⁾

第四に、必要な原料輸入の制限は、他方において却つて輸出貿易を減退せしめて、國際收支を惡化せしめるから、單純なる輸入制限ことに輸出原料品の輸入制限は、そこに自己矛盾を免れない。之を解決する方法は、必要な輸入と結びつけて、輸出促進を圖るの外に途はない。例へば一定價額の原料輸入を許すと同時に、それと同額の輸出を之に結びつけるならば、この一組の輸出入は爲替なくして決済されうると同時に、それだけ輸出を促進することが出来る。爲替管理を次第に強化して、輸入制限を著しく強めて行く場合には、遂には前述の矛盾に衝突して、何らかの方法によつて積極的に輸出を促進せねばならぬ段階に到達する。吾國は今まさにこの段

6) Huhle, Das Kompensationsgeschäft, a. a. O. S. 188, 192.
Ahbe, a. a. O. S. 15.
Gerhard Bradtke, Die deutsche Devisenbewirtschaftung, 1937, S. 31.

階に來てゐるものであるが、ドイツにおいても正しく同様の段階に到達してゐた。そこで輸出促進の新方法として出現したのが、またこの清算制度である。⁷⁾『ドイツ經濟政策が、相殺取引獎勵の初めから追及し、今なほ目指してゐる貿易政策的目標の實現にとつて本質的なものは、輸出貿易の促進性である』⁸⁾と言ふのは即ちこれである。かくの如くして清算貿易制を成立せしむるに至つたドイツの現實の事情より見る時は、この制度が如何なる必要から如何なる目的をもつて生れ出でたかは明らかである。即ち一方では消極的に、爲替管理の強化による輸入爲替の困難を克服する手段として、爲替によらざる決済を實現せんとするものであり、他方では積極的に、原料輸入を確保し同時に輸出を促進せんとするものである。即ち目的は爲替政策上と貿易政策上にある。この意味において、Huhle 氏が『ドイツ經濟政策の埒内における相殺取引の特殊な任務は、多かれ少なかれドイツ國に要請されてゐる爲替政策ならびに貿易政策上の原則の遂行を容易ならしむるにある』⁹⁾と言つてゐるのは正にその通りである。

四 清算貿易制の機能

然らば清算貿易制の經濟的機能は、如何なる點に存するか。Van der Borch 氏に従へば、『國際的交通における自然的交換が、相殺取引と稱せられる』¹⁾と言ひ、また Ahbe 氏によれば、それは『商品または勞務に對する商品または勞務の交換』²⁾であると言ふ。是等の説を單純にそのまゝに解すれば、清算貿易制は文字通りの物々交換を、今日において實現せんとする新制度であるかに思はれる。なるほどこの制度は、さきにも述ぶるが如く、爲

7) Bradtke, a. a. O. S. 31.

Huhle, a. a. O. S. 192.

Ahbe, a. a. O. S. 24.

8) Huhle, Das Kompensationsgeschäft, a. a. O. S. 292.

9) Huhle, Das Kompensationsgeschäft, a. a. O. S. 192.

1) R. van der Borch, Kompensationsverkehr mit den Neutralen (Handbuch

替その他の何等の形における資金をも國際間に移動せしめずして、貿易の決済を可能ならしむるものであるから、國際間の關係に關する限りでは、そこにはたゞ商品の移動が見られるだけであり、従つてその意味においては、一種の物々交換が實現してゐると見ることも不可能ではない。

併しながら清算貿易制は、二重の意味において固有の物々交換ではない。第一に、この場合の貿易は、決して鐵一噸と上衣一着とを交換する場合の如く、物の數量と數量とを直接に交換するものではなく、必ず二つの商品をそれぐに貨幣價額に換算して、その價額において貿易するものである。²⁾この點においては最初に述べたる交換貿易制 (Barter-system) も全く同様である。清算貿易制の中でも、Tauschgeschäft と稱せらるゝものは、たゞこの意味の交換取引に過ぎないものではあるが、併し主要な諸形態における清算貿易制は、寧ろ次の點にその特徴を有するものである。即ち第二に、たゞに貨幣價額に換算せらるゝのみならず、少くとも國內においては、その貨幣價額の授受が現實に行はれてゐる。即ち商品を輸入したるものは、その代金を貨幣をもつて支拂ひ、また商品を輸出したるものは、それに相當する貨幣額を受取つてゐる。従つて國內における現實の取引に關する限りでは、如何なる意味における物々交換も行はれてはゐない。『正常の貿易業務と同じく、相殺取引もまた普通には、商品取引と貨幣取引とに分れるが、その際に商品は常に國境を越えて行くが、併し貨幣はさうではない』⁴⁾それ故に清算貿易制の一般的な機能は、貿易決済としての國際的の資金移動を回避または排除して、之を國內的の資金移動に轉換するものである。蓋し普通の貿易決済にあつては、姑らく爲替銀行の仲介機能を別にせば、輸出入業者相互の間には、直接の資金移動は見られないからである。この資金の對外移動から對內移動への轉換

der Politik, 1920, S. 251.)

2) Ahbe, a. a. O. S. 10.

3) 有澤廣己氏, 前掲論文 p. 344.

4) Huhle, Das Kompensationsgeschäft, a. a. O. S. 189.

を、爲替制度によらずして行ふ所に、清算貿易制の重要な機能がある。

さきに爲替清算制の機能について述べたと同じく、右の機能もまた之を分析すれば、決済機能と貿易機能とに二分される。清算貿易制は前述の如く、爲替の代りに他の清算制度によつて、貿易を決済するにあるから、この國際的決済を可能ならしむる所に、この制度の直接の機能がある。然らば決済機能におけるこの制度の特質は何處にあるか。周知の如く爲替決済の方法は、國際間における現金の移動を回避するに過ぎず、爲替手形といふ證券の國際的移動は、依然として行はれてゐる。之に反して清算貿易制にあつては、その證券の移動さへも全く無くなり、商品移動の外には、精々のところたゞ一片の通知の行はれるに過ぎない。後に詳論する如く、清算貿易制にも種々の形態を含み、その形態の異なるに従つて、その決済機能にも多少の相違はあるが、何れの形態にも共通する點は、爲替その他の何れの形における證券をも移動せしめずして、國際的決済をなしうる點にある。

第二に、清算貿易制が單なる決済機能に止まらず、更に重要な貿易機能を有するものであることは、さきに述べたるこの制度の成立事情から来る必然の結果である。即ちその一は、爲替管理の強化のために著しき輸入制限となり、必要な原料輸入までも困難となるに至つて、この原料確保の一方法として案出されたものが即ちこの新制度である。その二は、輸出促進の方面における貿易機能である。この制度における主要の形態は、輸出と輸入とをリンクすることによつて、相互の決済を可能ならしむるにあるから、原料輸入の確保は、それだけ輸出の促進を結果することとなる。従つてこの貿易機能は、輸入と輸出を同時に促進せんとする双方的のものであつて、寧ろ輸入せんための輸出の促進と言ふ點に特質を有し、從來の如き輸入防遏・輸出促進といふ一方的のものでは

5) 拙著、貿易統制の研究、第一卷第一篇第十章参照。
6) 拙著、外國爲替論、第一篇第一章参照。

ない。

かくの如くこの制度が、それ／＼の特質において決済機能および貿易機能を有することは、即ちその成立事情が爲替困難と輸入困難に對する打開策として生れたことから必然であり、従つてまたこの制度の目的が、さきに述ぶるが如く、爲替政策上ならびに貿易政策上にあることと對應して、寔に當然であると言はねばならぬ。

清算貿易制の諸形態については、別論において詳論する豫定であるが、右の決済機能および貿易機能に關聯して、そこに理論的の諸形態または段階を認むることが出来る。

第一に、最も原始的な段階は、たゞに國際間の貿易資金の移動を回避するのみならず、また國內における資金移動をも無くするものである。例へばドイツの輸入商人は、一定價額の外國商品を輸入し、之に對して同じ價額のドイツ商品を輸出して、兩者を相殺する形態である。この場合にはドイツの輸入商人は同時に輸出商人となり、外國の輸出商人は同時に輸入商人となり、貿易およびその決済は、たゞこの兩人間においてのみ行はれ、最も單純かつ原始的である。けれどもこの場合でも決して文字通りの物々交換または自然交換ではなく、そこには依然として貨幣の介在があり、その評價に基づく貨幣價額において貿易せられ且つ相殺せられてゐる。併しこの貨幣は決して商品の流通手段としては現實に用ゐられず、單なる評價手段としてたゞ名目的に用ゐられたに過ぎない。この事實は貨幣本質論または貨幣機能論に對して、興味ある示唆を與ふるものである。併しながらこの形態の清算貿易制は、現實には種々の困難を免れない。需要商品の不一致・相殺金額の不一致・貿易時期の不一致・相手方發見の困難などその主なるものである。¹⁾従つてこの方法は決して一般的の形態として廣く行はるゝには至らな

7) 拙著、外國爲替論，第一篇第一章 p. 6.

圖 一 第

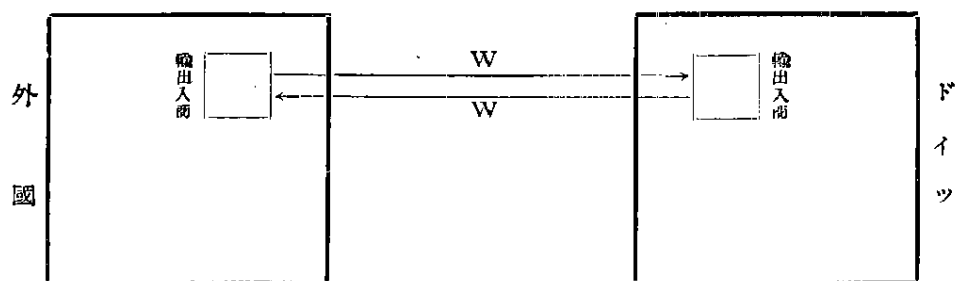
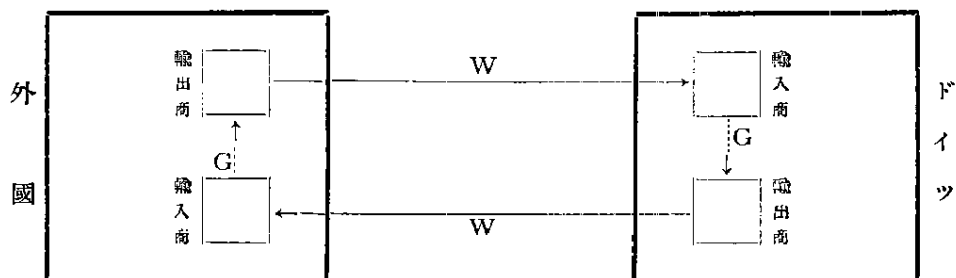


圖 二 第



5. ドイツにならば Tauschgeschäft または Waren-austauschgeschäft と稱せらるゝものは之に屬し、爲替缺乏を免れる方法として、最初の段階において或程度に行はれたが、併し廣く一般的な制度として發展するに至らなかつたのは、理由なきことではない。この形態を圖示すれば第一圖の如くである。

第二に、國際間においては商品移動のみではあるが、國內においては商品移動に伴ふ貨幣移動を見る場合は、典型的な Kompensationsgeschäft である。例へばドイツ輸入商は、その商品代金をドイツ輸出商に交付しうる場合にのみ、換言せばその輸入に相當する輸出が、他の何人かによつて行はれる場合にのみ、その輸入を許されることとなる。外國においてもまた、理論的には輸出商と輸入商とは分れて、輸出商の商品代金は、輸入商よりその商品代金として支拂はれることとなる。従つてこの場合には、理

8) Huhle, Geld und Kredit in Kompensationsgeschäft (Wirtschaftsdienst, Heft 48, Nov. 1934. S. 1630.)
Ditto, Das Kompensationsgeschäft a. a. O. S. 190.

論的には四人の關係者を生じ、相互に二組に分れて、その間に債權と債務とを相殺するものであり、相殺取引の典型の場合である。第一の形態に比すれば、一段の複雑性を加へて稍々發展せるものではあるが、併し尙ほ實際には相當の困難を免れない。第一は、互に一組となるべき反對業者 (Nebemann oder Gegenmann) を求むることの困難、第二は、假りに之を求め得たとしても、價額または期限の一致の困難、第三は、これらの輸出入に信用取引の伴ふ場合の金融上の困難等々これである。⁹⁾ 第二圖はこの形態を圖示したものである。

第三に、固有の *Kompensation* に伴ふ種々の困難を克服するために、一段の發展を成した形態は、*Aktengeschäft* において見らるゝ如く、その間に爲替銀行を介在せしむるものである。¹⁰⁾ 之によつてドイツ輸入業者と輸出業者とは、もはや直接に相殺を行ふ必要なく、輸出業者は爲替銀行に向つてその債權を賣り、爲替銀行は之を『國內支拂のための外人特別勘定』 (*Ausländer-Sonder-Konten für Inlandzahlungen*) として保有し、輸入業者は之を買取ることによつて、その輸入貿易を決済しうる方法である。従つて尙ほ個人的の債權・債務はそのまゝに保有されてゐるけれども、併し個別的の一つ一つの相殺は解消せられて、或程度に綜合的の相殺を可能ならしめるから、こゝから前の相殺取引による拘束は、著しく緩和せられ、または改善せらるゝことゝなつた。¹¹⁾ 加ふるに爲替銀行を介在せしむることによつて、商人相互の直接相殺に比し、著しく信用を高め確實性を増すことゝなる。これらの長所のため、一九三五年一月以來、第二の形態における相殺取引の改善方策として實施せられ、最近まで盛んに行はれてゐたものである。然るに一九三七年五月以來、その餘りに自由なる發展のために種々の弊害を生じて、この制度もまた廢止せられた様である。¹²⁾ 第三圖は即ちこの形態を示してゐる。

9) Huhle, Geld und Kredit im Kompensationsgeschäft, a. a. O. S. 1631.

10) 拙稿、輸入統制としての「アスキ」制度 (本誌第四十五卷第二號參照。)

11) Ahbe, a. a. O. S. 65-66.

12) 西川英三氏、獨逸貿易政策ノ基調ト日獨貿易ノ現狀 (謄寫刷) p. 6-7.

圖 三 第

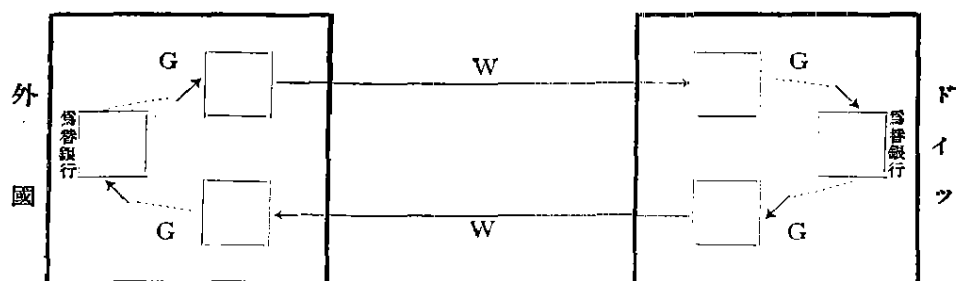
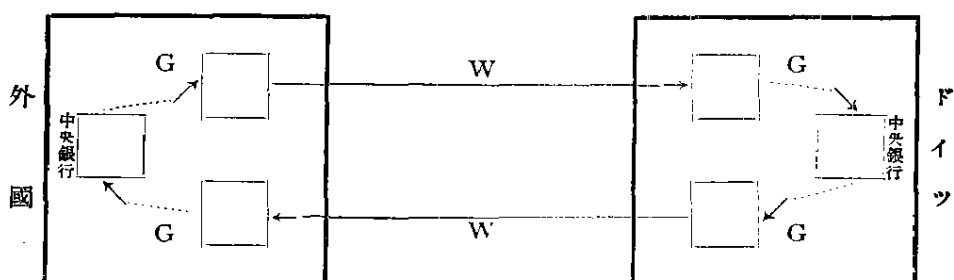


圖 四 第



第四に、最も包括的な綜合的決済の可能な形態として、謂はゆる爲替清算制 (Verrechnungsbankkommen) を舉げることが出来る。これは以上の諸形態が何れも私的の清算制度であるに對して、國と國との協定による公的の清算制度である點において、形式的に著しき特質を有するのみならず、その機能も著しく包括的となつて来る。第一に、多數の爲替銀行に分割されてゐた前の形態は、こゝでは中央銀行に統一されてゐるから、それだけ全國的に包括的な清算が可能となる。第二に、個人的計算の殘存してゐた前の形態は、こゝでは唯一の特別勘定に合流して、合同的に清算される。即ちこの制度では、全國的の總ての輸出入業者の總ての計算が、全く包括的・綜合的に、統一的に相殺せられ清算せられるのであるから、最も高度に發展した清算制度であると言ふことが出来る。この點に關聯して、重ねて以上の四形態

における機能を顧みるに、第一の形態は單純に二人間の貸借を相殺するのであるから、之を相對的相殺アヒタイと言ふならば、他の諸形態はすべて迂回的相殺であり、そのうち第二の形態は、個別的・直接的の相殺、第三の形態は、個人的・間接的の清算、第四の形態は、綜合的・統一的の清算制度と言ふことが出来る。

清算貿易制には尙ほ種々の諸形態も存在するが、それらに就ては別論にゆづり、こゝではたゞその理論的展開より見て興味ある典型的な四形態を捉へたに過ぎない。而してこの理論的發展の段階は、客觀的條件の具備する所では、大體においてその歴史的發展の段階と一致するものである。たゞ最後の爲替清算制の成立するためには、兩國における爲替管理の集中的強化を前提とするから、この條件の具備する所では、比較的早く出現するに反し、それを具備せざる場合には、その實現は容易でないといふ點を考慮に入れねばならぬ。(一三・五・一六)